



# J-SHISアプリ

いつでもどこでも地震ハザード情報を確認



社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニット研究員 東 宏樹

## J-SHISで提供している情報

地震ハザードステーションJ-SHIS<sup>1)</sup>では国の地震調査研究推進本部が公表している全国地震動予測地図のハザード評価などをはじめとする地震防災に役立つ数多くのデータを提供しています。日本全国を約250m毎のおよそ600万のメッシュに区切り、それぞれの地点について評価した地震の危険度、地面のゆれやすさ、地中に潜む活断層などです。

## J-SHISアプリ

2012年に公開したJ-SHISアプリ<sup>2)</sup>はこれらの情報をスマートフォン上でいつでもどこでも見られるようにしたものです。iOSとAndroidの端末にだれでも無料でダウンロードできます。



図1 J-SHISアプリ

## 地点情報の利用

J-SHISアプリで地図上の任意の場所をダブルタップすると地点情報を表示します。地点情報では、表示している地図に合わせてその地点の地震ハザード関連情報を見ることができます。

また、左右にスライドすることで関連する地点情報を切り替えながら閲覧することができます。



図2 J-SHISアプリによる地点情報表示

## ボタンと操作方法



図3 上部の操作インターフェース

①地点検索ボタン：

任意の住所や地点名、郵便番号等を入力することでその場所にジャンプします。

②透過率スライダー：

左に行くほど表示したい地図の色を濃く、右に行くほど薄くすることができます。

③現在地ボタン：

タップするとGPSやWi-Fi基地局の情報から、現在地周辺を拡大した地図になります。



図4 下部の各ボタン

④地図選択ボタン：

J-SHISの地図を選択する画面になります。

⑤断層表示ボタン：

タップで地図上に主要活断層を表示します。

⑥背景地図ボタン：

背景地図を道路地図か写真で切り替えます。

⑦情報ボタン：

J-SHIS アプリについての情報を表示します。

⑧凡例ボタン：

表示している地図の凡例を表示します。



図5 表層地盤増幅率を航空写真地図上に表示

## シナリオ地震地図の表示

想定地震地図はシナリオ地震地図とも呼ばれ、ある震源断層が地震を発生させた場合の周辺の揺れの大きさを震度で表したものです。④の地図選択ボタンで「想定地震地図」を選択し、表示される活断層（赤い線や長方形で表されます）をタップして発生ケースを選ぶことで表示することができます。図6では神奈川県西部にある断層のシナリオ地震を例として表示しています。

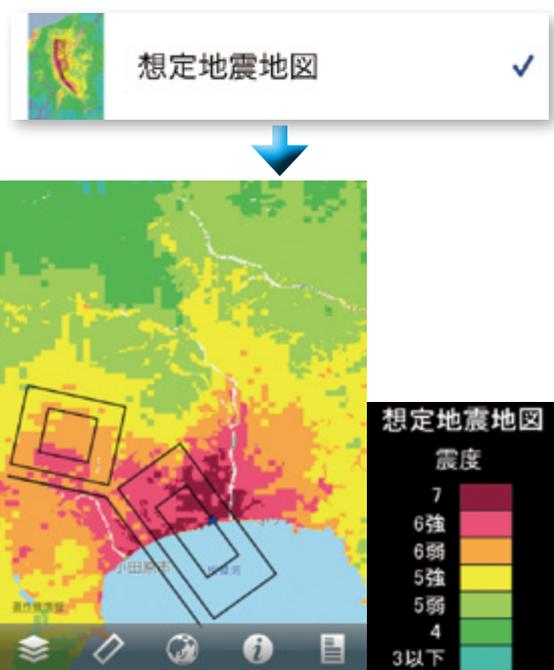


図6 想定地震地図：神縄・国府津—松田断層帯

## 今後の予定

J-SHIS アプリはまだまだ改善の余地があり、発展途上のサービスです。地図や断層の種類を増やすなど、今後も改善を重ねていきます。

## 参照



[1] 地震ハザードステーションJ-SHIS

<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>

[2] J-SHIS アプリ

<http://www.j-shis.bosai.go.jp/app-jshis>